



印西市議会議員

# こんにちは！ ますだようこです

series2 vol.12

発行/増田葉子 2018.5.6 印西市内野2-1-6-202 TEL080-5082-0970 Fax0476-46-6809 e-mail/YFA49624@nifty.com  
ホームページもご覧いただけます http://www.masuda-yoko.com

3月定例議会(2/19~3/20)の議案と、私の一般質問、市政への視点をご報告します。

## 3月の議会の議案

### ①新規条例の制定 2件

- ・一般旅券収入印紙購入基金条例/今年7月から、中央駅前出張所でパスポートの発券業務が始まる。必要な印紙を計画的に購入するための基金。
- ・障がい者サポートセンター設置管理条例/印旛高校跡地に主に精神障がいを対象とした自立訓練、就労支援の場をつくる。引きこもり状態にある人への訪問支援も行う予定。

### ②条例の一部改正 12件

3年ごとに改定される介護保険計画に基づき、65歳以上が支払う1号保険料を引き上げる「介護保険条例」、市立幼稚園の保育料を、保護者の所得に応じた金額に設定する「幼稚園保育料条例」、国民健康保険が県と市の共同運営になることに伴う「国民健康保険条例」、木下交流の杜公園の多目的運動場の利用料を定める「都市公園条例」など。

### ③補正予算 7件

- ・一般会計/市税と地方交付税で約4億円の増収と、年度末で執行残の減額補正とをあわせて「余ったお金」を保健福祉基金に4億円、教育施設整備基金に10億円積み立てる。
- ・特別会計/国民健康保険、下水道事業、介護保険、後期高齢者医療の4会計で、執行残などを減額補正。
- ・水道事業会計/国が決める高料金対策のための繰出し基準が確定し、1,942万円の繰出し補助を一般会計から受ける。

### ④30年度当初予算 6件

一般会計の予算規模は338億7千万円。4つの特別会計と水道事業会計をあわせると500億円超。

### ⑤訴訟の提起 1件

市制施行20周年記念花火大会(2016.8.27)は開始が大幅に遅れたことで花火が上がらないまま中止となったが、遅れの原因を巡って、市と花火業者の認識に争いがあり、業者が起こした委託料支払い請求訴訟に反訴するもの。

### ⑥市道の路線変更、廃止、認定 60路線 北千葉道路(国道464号)

## 議会報告会 開きます!

3月議会の報告と、自由な意見交換の場です。  
市政へのご質問、ご意見をお待ちしています。  
お気軽にご参加ください。

日曜日の午後です!

5月20日(日) 13:30~16:00

中央駅前地域交流館1号館2階 会議室1

の工事に伴う路線変更や廃止。また、牧の原地区などの宅地開発に伴う街区内道路を認定。

### ⑥人事の同意 12件

固定資産評価審査委員会委員と農業委員会委員の承認。

## 好調な税収を背景に

3月議会は当初予算の議会です。人口がまもなく10万人に届きそうな印西市。宅地開発の増、立地企業の増で、市税収入の好調ぶりが際立って感じました。市税収入の見込みは前年比約10億円の増でした。

予算編成方針の中では、あいかわらず「厳しい財政状況」をうたっていますが、「お金がある時ほど引き締めない」という心得でしょうか、それとも将来不安でしょうか。

下表に税収の推移と基金の積立額をまとめてみました。毎年、当初予算で見込んだ以上の税収があり、30年度の決算時には200億円を超えることでしょうか。景気の動向はわかりませんが、しばらくの間、急減することは考えられません。この堅調な税収を背景に、どんな市民サービスが展開されるのかが問題です。

新年度予算では、「福祉タクシー」の対象拡大や、交通不便

市税収入の伸びと基金の積み立て状況

(単位:億円)

年度	23	24	25	26	27	28	29	30
税収の見込み(当初予算)	149.2	146.8	154.1	160.2	166.9	169.2	174.9	185.5
確定した税収(決算)	159.6	158.7	162.8	172	173.1	180.7	*1 192.3	200億超?
年度内の増(補正予算)	10.4	11.9	8.6	11.8	6.2	11.5	17.4	?
基金の積立額(年度末)	84	101.7	123.3	119.8	129.3	128.1	*2 109	*2 130.7

※1 29年度確定税収の数字は、今議会の補正予算から。

※2 29、30年度の基金積立額は、当初予算での見込み。

地区でのデマンドバス実証実験など、拡充される事業はいくつかあるものの、新規事業として掲げられているのは、「人口10万人達成記念イベント」のみ。UR事務所の跡地購入費が計上されていましたが、そこで何をやるのか未定です。正直言って、これと言った目をひく事業のない予算でした。

給額が減ることも考えて、老後の蓄えはいったいいくらあれば足りるのか、将来不安はキリがありません。

印西市ももしかして将来不安にとらわれているのかも。将来の生活費(税金)が足りなくなったときのために、ある程度の蓄えは必要ですが、不安にとられ過ぎると、いま必要な投資に目が向けられず、自由な発想が生まれにくくなります。予算書を開いたとき、「なんか面白いことをやろうとしている」とワクワクしたいものです。来年度こそ。

## 将来の生活費はいくら必要？

年金の支給開始を68歳にする議論が始まりそうです。支

## 私の一般質問

10万人都市の文化の拠点に

# これからの図書館の役割は？

印西市の図書館は、大森図書館を中心に、小林、そうふけ、小倉台、印旛、本埜の6館体制で運営されています。大森、小倉台で祝日の開館がはじまりましたが、他市ではIT技術の活用や新しい運営方式が次々に導入されており、少しばかり出遅れ感が否めません。改めて現状を確認し、これからの図書館の役割について質問しました。

### 私の質問

### 市長、担当部長の答弁

図書や雑誌の購入実績はどう推移しているか？

図書備品の購入は、例年2千万円前後、雑誌などは500～550万円で推移している。

新しい図書を購入する一方で廃棄もあると思うが、市民一人あたりの蔵書数の推移はどうなっているか？

平成26、27年度は市民一人あたり5.8冊、28年度は5.7冊となっている。

近隣市の市民一人あたりの蔵書数はどうなっているか？

平成28年度の数字で、隣接6市の平均は4.7冊だが、白井市は8.82冊、成田市は7.09冊。

市民一人あたりの貸し出し冊数を10冊にする目標を掲げているが、蔵書の目標は何冊か？

蔵書の目標は設定されていない。

開館時間でよく比較される白井市の図書館、市民一人あたりの蔵書でも、「こんなに違うのか」という思いを抱きます。貸し出し冊数は「市民によく利用されている」という指標にはなりますが、必ずしも「文化の豊かさ」を示すものではないと思います。貸し出し冊数に力点がおかれると、幅広く総合的に市民の生涯学習を支える視点よりも、流行書に偏ってしまうことも考えられます。次に運営の要、人材について聞きました。

### 私の質問

### 市長、担当部長の答弁

各館の職員体制と、専門職である司書の年齢はどうなっているか？

大森は館長含め10名で、うち司書は6名。小倉台は大森の副館長と兼任の分館長含め9名で司書は5名。小林、そうふけ、本埜は、公民館長等と兼務の分館長含め職員3名で、うち司書は2名。印旛は公民館長等と兼務の分館長含め職員4名で司書は3名。司書は年齢的には、50～40代が中心。

正職員で司書を募集したことはあるか？

平成10年度の採用を最後に募集は行っていない。

司書は図書館運営の質を担う大切な専門職。20年間も採用なく長期的に人材を育成する視点が感じられないが？

指定管理者制度の導入を検討しており、新たな採用を見送っている。

指定管理者制度はすでに10年以上前から検討事項になっていますが、いまだに明確な狙いも方向性も出せず、次世代の人材育成もせず、ずるずると検討だけが続け、このままでは市民サービスの低下を招くだけです。

これからの図書館の役割は「本を借りるところ」ではなく、「あらゆる世代の人が集まる場所」でなくてはなりません。例えば、特定健診の保健指導を図書館でやって、「ご自分の健康のためにこの本を読んでください」と、司書と保健師が連携して提案する、パパママ教室の会場にして「こんな育児書がありますよ」と勧めしてみる等、いま市役所でやっている様々な市民相談を図書館でやってみるのはどうでしょうか。蔵書を増やすために、図書館以外の公共スペースも積極的に活用するなど、新しい図書館像を描いてみてほしいです。本を借りるだけでなく、人が集まる「文化の拠点」にするために。